

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	揖斐川町	学校名	揖斐川町立坂内小中学校			
校長名	増田浩志	対象学年	全学年	人数	7	人
活動名	総合的な学習の時間 「ふるさと体験活動」	時間数	50	時間	継続年数	14年
題材	1 自然環境 (山野・河川)・動物・植物・その他) 2 歴史 (出来事・史跡・先人)・その他) 3 文化 (芸能・芸術・民話・風習・その他) 4 地場産業 (農業・水産業・伝統工芸・その他) ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 6 その他 ()		[カワゲラウォッチング] [劇「伊勢湾台風から学ぶ」] [夜叉龍太鼓] [木の実のなる木の手入れ] [幼小中区民運動会・文化祭] []			

複数年継続するための工夫改善

総合的な学習の時間を中心にした小中9年間の一貫教育を行うことで、複数年継続のための工夫を行っている。小学校においては、木の実のなる木の手入れなど、坂内地区ならではの活動を体験することで、ふるさと坂内のよさを実感させる。そうした体験を土台として、中学生では、自ら主体的に地域にかかわる活動を位置付ける。具体的には、地域のお年寄りの方との交流活動を行ったり、坂内を支えてきた人々の取り組みについて調べ、それを劇に表わし地域の方へ披露する活動を行ったりしている。また、小中合同の活動として、夜叉龍太鼓の取組を行い、地域の祭りや様々な行事で披露している。

1 ねらい

坂内の特色を生かした自然・伝統文化・地場産業などの体験活動を通して、ふるさと坂内のよさや魅力を体験するとともに、それを土台とし、地域へ自ら働きかける主体的な活動や地域にかかわる文化を創り上げる活動を通して、地域の人々との人間的なつながりを深めながら郷土を愛し誇りとする心を育む。

2 活動の概要

これまで本校では、小学生を中心に「カワゲラウォッチング」や「木の実のなる木の手入れ」などの活動に、地域の方と連携しながら取り組んできた。さらに中学校では、自ら主体的に地域にかかわる活動や文化をつくり上げる活動を位置付けている。また、小中合同で、坂内の自然や環境を守る「クリーン作戦」や、地域に受け継がれてきた「夜叉龍太鼓」の取組を行っている。

さらに今年度は、児童生徒数の減少に伴い、運動会も「地域の方とともに創り上げる運動会」と位置付け、活動を行った。

(1) 小学生による自然とかかわる活動や地場産業にふれる活動

■「カワゲラウォッチング」

校区内を流れる坂内川で、役場生活環境課の方の指導をうけながら水中昆虫調査に取り組んだ。子どもたちは、昨年までの調査結果と今年の結果を比べながら、坂内川が美しく保たれていることを確認した。そして、坂内川の美しさを肌で感じるとともに、環境を守っていくことの大切さについて考えることができた。



カワゲラウォッチング

■「木の実のなる木の手入れ」

坂内振興事務所の協力をいただき、坂内地内の山林に植樹した樹木の手入れを行った。下草刈りや枯れた枝の撤去などに全校児童4名が取り組んだ。また、今年度は現地に設置する看板を作成する活動も行った。これらの活動を通して、地場産業でもある林業にふれ、産業を守っていこうとする方々の思いやその大変さを学ぶことができた。



木の実のなる木の手入れ

(2) 中学生による地域と主体的にかかわる活動や文化を学び創り上げる活動

■地域の高齢者との交流

中学校では、地域のお年寄りの方と積極的に関わる活動を大切にしている。その一つが5月と11月の年2回実施している「独居老人宅への訪問」である。訪問の際は生徒たちから積極的に話しかけ、会話を楽しむことができるようにしている。お年寄りの方々もこの訪問を楽しみにしてくださり、「ありがとう」の言葉が生徒たちの喜びや励みにもなっている。

もう一つの活動が、「お年寄りとふれあう会」である。これは、地域のお年寄りを学校にお招きし、昔の話を聞いたり、一緒に簡単なゲームを行ったりして交流を図っている。

また、地域のデイサービス施設を訪問し、利用者の方との交流も行っている。



お年寄り訪問



お年寄りとふれあう会

■地域の歴史・文化を学ぶ

地域の文化を学び創り上げる活動では、昨年度までに「明治期における北海道開拓にかかわった坂内出身の人々の苦労や喜び」、「地域に伝わる夜叉ヶ池伝説について」をテーマに設定し、地域の方への取材や文献などを利用して調査し、それを劇で発表した。今年度は「地域を守り築き上げた人々」をテーマとして、伊勢湾台風で被った甚大な被害からの復興にかかわった人々の様子や思いについて調査活動を行い、それを劇で地域に発表をした。生徒たちは調査活動で旧坂内村元村長から当時の様子を聞き、ふるさとを守り通した人たちの苦労や思いを知るとともに、自分たちもふるさとを大切にしたいという思いをもつことができた



伊勢湾台風当時の様子を聞く

(3) 小中合同で地域の文化や自然に関わる活動

■小中合同の夜叉龍太鼓の取組

毎年5月頃から、小中合同の太鼓練習を始める。練習は中学生がリードし、上級生が下級生に打ち方を指導することが伝統となっている。今年度は児童生徒数の減少により、7名での演奏となったが、小学校2年生の児童も力強く太鼓打つことができた。この成果は、毎年7月に行われる「夜叉ヶ池伝説道中祭り」という地域の祭りで披露した。

また、この祭りでは、地域の方と一緒に作り上げる「夜叉ヶ池伝説」の音楽劇にも、全校児童生徒が参加をし、地域の一員として活躍している。



道中祭 太鼓・音楽劇

■坂内親子クリーン作戦

児童生徒が「美しい坂内を守ろう」と、地域の美化活動に取り組んでいる。これは平成7年度に保護者の呼びかけで始まり、以来伝統的な活動として実践されている。今年度も「アユ釣り客が多く訪れる坂内川を美しくしたい」との思いで、美化活動と啓発看板作りに取り組んだ。この活動は、自分たちが愛する坂内の自然環境について親子で考え、環境美化を推進する機会となっている。



クリーン作戦看板

3 地域社会への貢献

今年度の本校の児童生徒数は小学生4名中学生3名の合計7名となった。来年度はさらに人数が減り、全校児童生徒が5名となる見通しである。このような現状を考えると、運動会や文化祭などの学校行事は、これまで同様の取り組みが難しくなっているのが事実である。このことは児童生徒、特に中学生は強く実感しており、「これらの学校行事を変えていかなければならない。新しいものを作らなければならない。」という考えをもった。

そこで、今年度の運動会、文化祭のスローガンを「Restart」で統一し、地域の方と一緒に、新しい伝統を作るための再出発の年であると考えた。

■地域の方に元気を伝える運動会「Restart～坂内の絆をさらに深める～」

本校の運動会は、幼稚園、小中学校、地区の合同運動会の形で実施している。今年の運動会は、児童生徒の減少により、2団に分けることができなくなった。そこで、これまでの団対抗ではなく「地域の方に元気になってもらうために、自分たちの姿を見てもらう運動会」と位置付け、自分たちの努力する姿、元気な姿を地域の方に発信することを大切に活動に取り組んだ。児童生徒は地区の種目に出場したり、係として働いたりすることで、地域のために貢献しようがんばることができた。

また、小中合同で一輪車の演技を行い、地域の方との絆を強くしたいというメッセージを発信した。

児童生徒の演技を見てくださった地域の方からは、「坂内の絆が深まっていくことがうれしい」という感想をいただくことができた。



坂内運動会

■ふるさとを大切に作る心を伝える文化祭「Restart～絆を深め、伝統をつなぐ～」

本校の文化祭は、運動会と同様に、幼稚園、小中学校、地区が合同で開催する形を取っている。

今年度の文化祭では、前述のように「伊勢湾台風から学ぶ～郷土愛・絆～」と題して、小中合同で劇の発表に取り組んだ。シナリオ作りのために、台風当時の様子や被害の大きさ、そして、その復興に向かう人々の思いなどを聞き取り調査していく中で、子どもたちは、当時の坂内の人々のふるさとを守ろうとする強い思いを知ることができた。そして、その思いを受け継いでいくことが、自分たちのふるさとを大切にすることにつながると考えることができた。そして、その思いを込めた劇を文化祭の場で、地域の方々に披露をした。



文化祭劇発表

劇を観賞してくださった地域の方からは「当時を思い出して、涙が出た。」「坂内を大切にしたいという気持ちが伝わってきた。」という感想をいただくことができた。

4 活動を通しての児童生徒の変容

次の文章は、お年寄りの方とふれあう会を終えた生徒の感想の一部である。

たくさんのお年寄りの方とたくさんのお話をし、昔のことを聞くことができたのでよかったです。お年寄りの方は私から質問すると、昔のことを思い出して楽しそうに話してくださって、もっとたくさん知りたいと思いました。ゲームも楽しくてとてもいい会でした。



お年寄りとふれあう会

写真を見ながら昔の坂内の様子を聞くことができました。話しているうちにお年寄りの方の表情がどんどん生き生きしてきたのがうれしかったです。

生徒たちは、極小規模となった自分たちの学校を、地域の方が支えてくださっているという感謝の心をもっている。だからこそ、過疎化の進んだ坂内に「元気」を与えたいという思いで、地域との絆を大切にしたい様々な活動に取り組んでいる。

これは、小規模校だからこそ行える、小中9年間を見通した一貫教育の賜だと考える。小学校では、坂内ならではの豊かな自然の素晴らしさを感じる体験活動をたっぴりと味わわせ、中学校ではその豊かな体験を糧として、坂内の自然を愛し、坂内の人との絆を大切にしたいという心情と態度を育てることにつなげている。

それが、文化祭で地域の方に披露した劇の台詞、「これからも、今まで坂内を発展させてきた人々に感謝して生きていくんだよ。」「感謝して生きていくよ。そして、ふるさとのことをずっと大切にしていこうよ。坂内のこと大好きだから。」に表れていると考える。



文化祭 劇